

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 1 区分

【発行日】平成 27 年 1 月 15 日 (2015.1.15)

【公開番号】特開 2013-205098 (P2013-205098A)

【公開日】平成 25 年 10 月 7 日 (2013.10.7)

【年通号数】公開・登録公報 2013-055

【出願番号】特願 2012-72014 (P2012-72014)

【国際特許分類】

G 0 1 R 1/073 (2006.01)

G 0 1 R 31/26 (2014.01)

H 0 1 L 21/66 (2006.01)

【F I】

G 0 1 R 1/073 E

G 0 1 R 31/26 J

H 0 1 L 21/66 B

【手続補正書】

【提出日】平成 26 年 11 月 18 日 (2014.11.18)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 7】

基板 7 の導電パターン 6 はスルーホール 1 1 によって相互に接続されている。スルーホール 1 1 の下側には弾性体 4 が設けられている。スルーホール 1 1 及び弾性体 4 は、基板 7 の下面のうち、L S I チップの各電極パッドの配置に対応した位置にそれぞれ設けられている。この弾性体 4 は、漏斗状に形成され、中央に放射状の切れ目 1 2 を形成されている。弾性体 4 は、スルーホール 1 1 に電氣的に接続されている。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 7】

本発明に係るプローブにおいては、基端部が常に基板側と接触した状態にあるため、一旦プローブと基板とが電氣的に接続した状態から、両者が離間した場合におけるスパークの発生を抑えてプローブの焼損や抜け落ちを防止することができる。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 8】

弾性支持部 3 6 は、図 6 ~ 8 に示すように、上記本体部 3 5 の基端 3 5 a 側に当該本体部 3 5 を挟んで両側に対称に 2 つ設けられている。弾性支持部 3 6 は円弧状に湾曲させて形成されている。具体的には、弾性支持部 3 6 は、同じ曲率半径の円弧状に湾曲させて構成されている。なお、この弾性支持部 3 6 の曲率は、配置する位置や本体部 3 5 の長さ等によって変えてもよい。例えば、弾性支持部 3 6 の基端 3 6 a 側の曲率を小さく、先端 3

6 b 側の曲率を大きくしてもよい。これにより、プローブヘッドトップ板 2 4 側に当接する弾性支持部 3 6 の先端 3 6 b 側はあまり湾曲しないで確実に踏ん張って、弾性支持部 3 6 の基端 3 6 a 側が大きく湾曲して本体部 3 5 を弾性的に支持することとなる。